

令和元年度事業報告書

I 会務報告

1. 会員の状況について

	正会員	準会員	合計
今期末会員数	2,850名	0名	2,850名
前年度会員数	2,883名	0名	2,883名
増減	△33名	0名	△33名

支部別会員数は、添付諸表資料1のとおり

2. 賛助会員について

(1) 団体等

北海道農業共済組合連合会	500,000円
北海道農業協同組合中央会	100,000円
ホクレン農業協同組合連合会	350,000円
(一社) ジェネティクス北海道	100,000円
(株) 高橋動物病院	100,000円
酪畜支援センター	100,000円
(株) 札幌夜間動物病院	200,000円
(有) 士別動物病院	50,000円
(有) なかとんべつ動物病院	50,000円

(2) 個人

なし

3. 名誉会員の推薦について

該当なし

4. 役職員の異動について

(1) 役員

令和元年6月19日、第7回定時代議員会及び引き続き開催した第4回理事会において新役員が選任され、同日就任した。

(2) 職員

平成31年4月1日 幅中亜矢子（主事）昇任

5. 日本獣医師会特別委員会委員、職域別部会委員会委員（本会分）

(1) 特別委員会

One Health 推進特別委員会（副委員長）	会長	高橋 徹
狂犬病予防体制整備委員会（委員長）	会長	高橋 徹

- AMR 対策推進検討委員会（副委員長） 副会長 田村 豊
- (2) 職域別部会委員会
- ◎常設委員会
- | | | |
|---------------------|------|-----------|
| 学術・教育・研究委員会 | 理事 | 木田克弥 |
| 産業動物臨床・家畜共済委員会(部会長) | 副会長 | 西川治彦 |
| 産業動物臨床・家畜共済委員会 | 理事 | 岡本真平 |
| 小動物臨床委員会 | 理事 | 高良広之 |
| 家畜衛生・公衆衛生委員会 | 理事 | 小田茂樹 |
| 動物福祉・適正管理対策委員会 | | 黒川明美（札幌市） |
| 総務委員会 | 専務理事 | 菅野一敏 |
- ◎個別委員会
- | | |
|----------------|------------------|
| 獣医師生涯研修事業運営委員会 | 荻和宏明（北海道大学） |
| 野生動物対策検討委員会 | 武田忠義（北海道） |
| 女性獣医師支援対策検討委員会 | 岩村 舞（NOSAI 林-ツク） |

6. 代議員会・理事会の開催について

(1) 令和元年度（第7回）定時代議員会

日 時：令和元年6月19日（水）

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

- | | |
|-------|---------------------|
| 議案第1号 | 平成30年度事業報告及び決算について |
| 議案第2号 | 令和元年度事業計画及び収支予算について |
| 議案第3号 | 令和元年度賛助会費について |
| 議案第4号 | 令和元年度役員報酬について |
| 議案第5号 | 役員を選任について |

(2) 理事会

【第1回】

日 時：平成31年4月18日（木）

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

〈協議事項〉

1. 会館建設見積額について
2. 貸事務所賃貸料金について
3. その他

【第2回】

日 時：令和元年5月22日（水）

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<報告事項>

1. 職務執行状況報告について
2. 地区獣医師会総会の開催概要について
3. 日本獣医師会関係会議について
4. その他の会議について
5. 傷病鳥獣等保護受託業務について
6. 事務職員の昇格について

<議決事項>

1. 平成 30 年度事業報告及び決算の承認について
2. 平成 30 年度決算監査結果について
3. 令和元年度賛助会費について
4. 令和元年度役員報酬について
5. 役員を選任について
6. 令和元年度（第 7 回）定時代議員会の開催について
7. 代議員会における書面等による議決権の行使について
8. 令和元年度補正予算（案）の承認について
9. 支部事務局長の変更について
10. 各部会委員・北海道獣医師会雑誌編集委員・学会役員の変更について

<協議事項>

1. 日本獣医師会役員・各部会委員の推薦について
2. 第 70 回北海道獣医師大会提案予定について
3. 令和元年度地区学会における発表申込みの集約について
4. その他

【第 3 回】

日 時：令和元年 6 月 19 日(水)

会 場：ホテルヤマチ

議 事

<報告事項>

1. 地区獣医師会総会の開催概要について
2. 日本獣医師会関係会議について
3. 狂犬病予防注射事故発生状況について

<議決事項>

1. 支部長・支部事務局長の変更について
2. 各部会委員・各特別委員会委員の変更について

<協議事項>

1. 令和元年度（第 7 回）定時代議員会の開催について
2. 役員選任立候補受付け結果について
3. 狂犬病予防注射委任契約料金の変更について

4. 会館建設計画検討特別委員会の開催について
5. 当面の事業推進について
6. 今後の予定について
7. その他

【第4回】

日 時：令和元年6月19日（水）
会 場：北海道獣医師会館 会議室
議 事

<議決事項>

1. 次期会長・副会長・専務理事の選任について
2. 役員報酬等の執行について

【第5回】

日 時：令和元年7月25日（木）
会 場：北海道獣医師会館 会議室
議 事

<報告事項>

1. 放射線講習会実施報告について
2. 北海道医師会との連携シンポジウム実施報告について
3. 北海道獣医師大会時の顕彰について
4. 夏休み！子供体験アカデミーの開催中止について

<協議事項>

1. 令和2年度北海道医師会連携シンポジウムの開催テーマについて
2. 令和3年度地区学会の開催内容について
3. 狂犬病予防注射委任契約について
4. 会館建設計画検討特別委員会について
5. 胆振東部地震支援金について
6. 動物愛護事業等への協賛について
7. 当面の事業推進について
8. 災害時動物救護対策委員会設立準備委員会の開催について
9. 今後の予定について

【第6回】

日 時：令和元年12月18日（水）
会 場：北海道獣医師会館 会議室
議 事

<報告事項>

1. 職務執行状況報告について
2. 中間監査の結果について

3. 令和元年度狂犬病注射事故発生状況について
4. 北海道獣医師会・日本獣医師会関係会議について

<議決事項>

1. 北海道獣医師会雑誌編集委員の交替について
2. 令和2年度大会・地区学会の開催場所について
3. 令和2年度からの狂注技術料の変更について
4. 令和2年度第二次補正予算（案）の承認について
5. ホームページの改修について

<協議事項>

1. 会費規程の改正について
2. 北海道獣医師会館内での喫煙について
3. 動物救護活動基金管理規程の制定について
4. 令和2年度事業計画（案）について
5. 令和2年度医師会連携シンポジウムのテーマ等について
6. 令和2年度開催事業について
7. 令和2年度代議員会開催日程について
8. 災害時動物救護対策委員会の設立と支部（地区）の対応について
9. 令和3年度地区学会の開催について
10. その他

【第7回】書面による決議日 令和2年3月23日（月）

<提案事項>

1. 令和2年度（第8回）定時代議員会の開催について
2. 令和2年度事業計画（案）について
3. 令和2年度収支予算（案）について
4. 会費規程の改正について
5. 令和2年度名誉会員の推薦について
6. 北海道獣医師会館内での喫煙について

(3) 監 査

平成30年度決算監査	令和元年 5月14日（火）	北獣会館
令和元年度監事会	令和元年 7月25日（木）	〃
令和元年度中間監査	令和元年 11月27日（水）	〃

(4) 三役会議

第1回	令和元年 5月16日（木）	北獣会館
第2回	令和元年 12月9日（月）	〃

(5) 事務局長会議等

役員・事務局長合同会議	令和元年 8月28日（水）	北見工業大学
-------------	---------------	--------

(6) 各部会、委員会等

産業動物臨床部会	平成31年 4 月10 日 (水)	北獣会館
小動物臨床部会	平成31年 4 月17 日 (水)	〃
野生動物部会	令和元年 6 月 4 日 (火)	〃
行政部会	令和元年11 月22 日 (金)	〃
役員候補者推薦管理委員会	平成31年 4 月 5 日 (金)	〃
北獣会誌編集委員会	平成31年 4 月24 日 (水)	〃
会館建設計画検討特別委員会	令和元年 7 月19 日 (金)	〃
組織基盤強化特別委員会	令和元年11 月 5 日 (火)	〃
災害時動物救護対策委員会 (仮称) 準備委員会	令和元年 8 月20 日 (火)	〃
〃	令和元年11 月12 日 (火)	〃

(7) 学会関係

獣医学術地区学会幹事会	令和元年 6 月25 日(火)	北獣会館
-------------	-----------------	------

7. 弁護士との顧問契約について

札幌市内で法律事務所を開設している橋本智弁護士（橋本智法律事務所 Tel : 011-272-1056）と顧問契約を締結し、会員の法律的な事案に相談対応できる体制を継続している。

II 事業報告

公益目的事業 1： 獣医学術の振興・普及並びに人材の育成を図る事業

獣医学及び獣医療の最新の研究成果、優れた診療実績等を共有し、獣医師全体の技術向上を図り、それらの成果を社会に還元する。

1. 獣医学術北海道地区学会・北海道獣医師大会の開催

(1) 獣医学術北海道地区学会の開催

- ①令和元年度獣医学術北海道地区学会は8月29・30日、北見工業大学において開催した。会員及び会員外520名、来賓・関係機関等33名、合計553名の参加を得、オホーツク支部等道東3支部や学会幹事を中心とした会員の協力により整齊と運営された。
- ②29日午後、北見工業大学 鈴木育男先生と奥村貴史先生による市民公開シンポジウム「人工知能のできること・できないことーAI活用の可能性を探るー」、「医療用人工知能における歴史と現状、課題」が開催され、多くの先生方が参加された。
- ③一般の発表演題は産業動物獣医学会79題、小動物獣医学会44題、獣医公衆衛生学会17題、合計140題がエントリーされた。
- ④両日の昼休みには、協賛会社の協力のもと7会場でランチョンセミナーを多彩な内容により実施された。
- ⑤各地区学会長賞・北海道獣医師会会長賞・奨励賞については、学会終了後に開催された審査会において慎重に審議され、次のとおり選定された。

【令和元年度北海道地区学会優秀発表演題と発表者】

1. 日本産業動物獣医学会（北海道）

【北海道地区学会長賞】

「呼吸器病発症牛からのD型インフルエンザウイルス分離事例と疫学的解析」

○早川 潤¹⁾ 上垣華穂¹⁾ 増子朋美²⁾ 小林和美¹⁾ 高橋弘康¹⁾

1) 網走家保 2) 根室家保

「牛独房における有孔ラバーマットの応用例」

○阿部紀次¹⁾ 稲森 剛²⁾ 小松真人³⁾ 森田 茂³⁾ 加藤敏英¹⁾

1) 酪農大生産動物医療学 2) 酪農大附属農場 3) 酪農大循環農学

「オホーツク管内乳用子牛における臍静脈膿瘍造袋術17例」

○大久保宏平 藤田浩輝 鴫田直子 吉川裕亮 井上麻里 荒町聖子

NOSAI オホーツク

「馬の骨嚢胞に対する螺子挿入術の有用性」

○宮越大輔¹⁾ 樋口 徹¹⁾ 井上 哲¹⁾ 佐藤正人¹⁾ 加治原彩子¹⁾ 後藤忠広²⁾

1) NOSAI みなみ 2) 北海道 NOSAI

【北海道獣医師会会長賞】

「*Mycoplasma bovis* 不顕性乳房感染牛における乾乳期治療の検討」

○伊藤めぐみ¹⁾ 秦 英司²⁾ 井口弘之³⁾ 高橋英二¹⁾

1) 帯畜大臨床獣医学 2) 農研機構動衛研 3) 十勝 NOSAI

「乳用死産子牛に見られた先天性甲状腺腫の1例について」

○前田恵里¹⁾ 稲垣華絵²⁾ 井澤将規²⁾ 高澤良徳¹⁾ 上林裕和¹⁾

1) NOSAI 道央 2) 宗谷家保

【奨励賞】

「ホルスタイン種育成牧場における *Moraxell bovoculi* が主原因と考えられる重度角結膜炎の発生」

○千葉悠斗¹⁾ 伊藤めぐみ¹⁾ 土屋博威²⁾ 楠本晃子¹⁾ 小原潤子³⁾ 高橋英二¹⁾

1) 帯畜大臨床獣医学 2) 土屋家畜診療所 3) 道総研畜試

「牛第四胃変位整復手術における麻酔法と術前非ステロイド抗炎症薬投与による術後ストレス評価の比較」

○吉田美穂 佐藤綾乃 中村愛理 森川雄介 渡部 栞 浮 千可子 川本 哲
加藤敏英

酪農大生産動物医療学

2. 日本小動物獣医学会（北海道）

【北海道地区学会賞】

「エキノコックス症流行地域における飼い犬の感染状況とその対策の重要性」

○山田恭嗣¹⁾ 八木欣平²⁾ 入江隆夫²⁾ 孝口裕一²⁾ 浦口宏二²⁾ 森嶋康之³⁾

1) やまだ動物病院 2) 道衛研 3) 国立感染研

「犬の膀胱移行上皮癌に対して膀胱全摘出後に尿管を尿道／包皮／膣／腹壁に吻合した30症例」

○廉澤 剛^{1,2)} 丹羽昭博¹⁾ 谷川慶一¹⁾ 酒井俊和¹⁾ 細谷謙次²⁾ 高木 哲^{2,3)}
浅野和之^{2,4)} 藤永 徹²⁾

1) 酪農大伴侶動物医療学 2) 北大獣医外科学 3) 現 麻布大 4) 現 日本大

「両側横隔神経麻痺による呼吸不全に対し、横隔膜縫縮術／メッシュ縫着術を実施した犬の1例」

○松本 創¹⁾ 細谷謙次¹⁾ 櫻井雄平¹⁾ 金 尚昊²⁾ 石塚友人¹⁾ 寺澤元子³⁾
奥村正裕²⁾

1) 北大附属動物病院 2) 北大獣医外科学 3) 北野動物病院

【北海道獣医師会長賞】

「過去3年間の輸血後副反応に関する回顧的研究」

○細田千尋¹⁾ 森下啓太郎¹⁾ 山崎淳平¹⁾ 高田健介²⁾ 細谷謙次¹⁾ 金 尚昊³⁾

佐々木 東⁴⁾ 大田 寛⁴⁾ 滝口満喜⁴⁾

1) 北大附属動物病院 2) 北大動物分子医学 3) 北大獣医外科学

4) 北大獣医内科学

「後肢を温存し寛骨臼を含めた部分半側骨盤切除を行った骨盤骨肉腫の犬の1例」

○酒井俊和^{1,2)} 西村麻紀³⁾ 賀川由美子³⁾ 廉澤 剛^{1,2)}

1) 酪農大伴侶動物医療学 2) 酪農大附属動物医療センター 3) ノースラボ

【奨励賞】

「免疫チェックポイント分子 Programmed death-ligand 1 (PD-L1)を標的とする抗体薬による免疫療法が奏功した肺転移のある口腔内悪性黒色腫の犬の1例」

○竹内寛人¹⁾ 前川直也²⁾ 今内 覚^{1,2)} 高木 哲³⁾ 細谷謙次³⁾ 賀川由美子⁴⁾
岡川朋弘²⁾ 鈴木定彦^{2,5)} 山本啓一^{2,6)} 村田史郎^{1,2)} 大橋和彦^{1,2)}

1) 北大獣医感染症学 2) 北大獣医先端創薬 3) 北大附属動物病院
4) ノースラボ 5) 北大人獣共通感染症リサーチセンター 6) 扶桑薬品工業

「心原性肺水腫の犬において心エコー図検査を用いた B ラインの評価法の検討」

○藤本英一郎¹⁾ 榊原啓一郎²⁾ 山下洋平³⁾ 佐野忠士¹⁾ 堀 あい¹⁾ 堀 泰智¹⁾

1) 酪農大附属動物医療センター 2) エビス動物病院
3) ノースアニマルクリニック

3. 日本獣医公衆衛生学会（北海道）

【北海道地区学会賞】

「と畜検査で実用可能な牛白血病迅速診断法の検討」

○齋藤麻矢¹⁾ 神谷可菜¹⁾ 清水俊一¹⁾ 大野裕太²⁾

1) 早来食肉衛検 2) 道衛研

【北海道獣医師会賞】

「スズメ *Passer montanus* の幼鳥で確認された致死的な原虫感染症の2例」

○黒澤信道¹⁾ 古谷和弥²⁾ チェンバーズ ジェームズ¹⁾ 内田和幸²⁾ 中山裕之²⁾

1) JA くしろ丹頂 2) 東京大獣医病理学

【奨励賞】

「飼い主とその飼育犬に関する口腔内細菌叢の相互関連性調査」

○西川泰代¹⁾ 郡山尚紀²⁾ 堀江一樹¹⁾ 内田玲麻¹⁾ 村松康和¹⁾

1) 酪農大衛生・環境学 2) 酪農大獣医保健看護学

(2) 第70回北海道獣医師大会の開催

①第70回北海道獣医師大会は8月29日（木）北見工業大学を会場に、日本獣医師会蔵内勇夫会長・砂原和文副会長、境政人副会長他多数の来賓を迎え盛会裏に開催された。

②大会では、産業物臨床部会提案として「産業動物分野における地域獣医療の確保と獣医師の偏在対策を求める」の提案を満場一致で決議した。

③大会に引き続き、前年度地区学会優秀発表表彰、北獣会誌投稿優秀論文表彰、狂犬病予防事業顕彰及び学位（博士号）取得者顕彰を行った。狂犬病予防事業顕彰者及び学位取得顕彰者は次のとおり。

狂犬病予防事業顕彰者

川向修司（石狩支部） 立花 徹（石狩支部）
三國紀朗（石狩支部） 大津好雄（道南支部）
齊藤竜仁（釧路支部） 富樫良男（ホーク支部）

学位（博士）取得顕彰者

- ・尾宇江康啓 石狩家畜保健衛生所
論文題目 「日本国内で流行した馬コロナウイルスの分子疫学及び浸潤状況に関する研究」
- ・久保 明 どうぶつ眼科 VECS
論文題目 「イヌの緑内障発生状況と視覚予後調査ならびに眼房水の蛋白質解析、眼組織における免疫組織化学的研究」
- ・佐藤綾乃 酪農学園大学
論文題目 「子牛肢端の先天性屈曲変形に関する画像解析に基づく臨床的研究」
- ・登石裕子 社台スタリオンステーション
論文題目 「Hormonal Evaluation for Reproductive Management and Treatment with Anti-viral Drug and Epidemiological Study for Equine Coital Exanthema in Thoroughbred Stud」
(サラブレッド種馬所における内分泌学的評価を用いた繁殖管理及び馬媾疹に対する抗ウイルス薬による治療と疫学調査)
- ・三木 渉 北海道農業共済組合連合会研修所
論文題目 「重軌馬における超音波画像検査を利用した卵巣・子宮の診断基準の策定」

2. 北海道獣医師会雑誌の発行について

獣医学術の振興・普及および諸行事の案内、活動報告等の情報提供の媒体として北海道獣医師会雑誌を毎月定期に発刊した（第63巻第4号～12号及び第64巻第1号～第3号）。また、会誌編集委員会において、前年度本会誌に掲載した学術論文から優秀なものとして次の3編を選定し、第70回北海道獣医師大会において顕彰した。

平成30年度北海道獣医師会雑誌優秀論文表彰

- ・産業動物獣医学部門

「*Listeria monocytogenes* の感染がみられた馬の胸膜肺炎および髄膜炎」

○上野 拓 小林 亜由美

後志家保

「*Mycobacterium avium* 血清型8による無病巣ツベルクリン疑反応牛の発生」

○川嶋 千晶^{1, 2)} 稲垣 華絵^{1, 3)} 内田 桐子¹⁾ 小林 亜由美⁴⁾ 神間 清恵¹⁾

1) 石狩家保 2) 十勝家保 3) 宗谷家保 4) 後志家保

- ・小動物獣医学部門

「犬の原発性免疫介在性溶血性貧血（pIMHA）の予後および治療内容に関する回顧的調査」

山下 時明 山下 律子

真駒内どうぶつ病院

3. 国際交流について

本会は相互の獣医学術の向上と交流を深め、互いに発展することを目的として、韓国の慶尚北道獣医師会と姉妹提携を結んでいる。昭和54年の訪韓以降、これまで数年間隔でそれぞれ6回訪問しあって交流してきた。平成25年に本会が韓国慶尚北道を訪問したが、現在海外悪性伝染病が発生しており招聘を延期している。

4. 技術向上に係る講習会、研修会の開催について

本部主催として小動物講習会・獣医公衆衛生講習会・管理獣医師講習会及び十勝支部との共催で放射線講習会を帯広市で開催した。例年開催している野生鳥獣救護技術講習会は、新型コロナウイルス感染拡大により中止した。支部主催により、産業動物・小動物ブロック講習会、新技術講習会を実施した。また、地区獣医師会や関係団体の主催する講習会、研修会等に後援・協賛し支援した。開催状況は添付諸表資料3のとおり。

公益目的事業2：人と動物が共生する豊かで健全な社会の発展に貢献する事業

人と動物の共通感染症の予防等、公衆衛生や家畜の伝染病予防等の家畜衛生に関する事業並びに動物の愛護・福祉の増進・野生動物の保護に関する事業を推進し、人と動物が共生する豊かで健全な社会の発展に貢献する。

1. 狂犬病予防注射事業の推進について

(1) 狂犬病予防注射事業は本会の主体となる公益目的事業として、各支部実施班の協力のもとで実施した。その注射頭数は166,965頭（前年比4,398頭減）、ここ数年減少傾向が続いている。支部別注射頭数は添付諸表資料4のとおり。

これに対応するため、小動物臨床部会・行政部会連携により狂犬病予防注射実施率向上対策を検討し、その活動の一つとして北海道・札幌市・動物愛護団体等と連携し、札幌地下歩行空間で狂犬病予防注射啓発イベントを開催した。

(2) 狂犬病予防事業に係る事故について、ワクチンによる副反応事故についても、狂犬病予防注射事故対策要領に沿って補償することとしている。令和元年度は犬の事故は死亡3頭・回復44件、人身事故1件の報告があった。犬の事故の多くはアナフィラキシー反応だが、犬の飼養者個々にチラシ等で注意喚起する等、きめ細かい対応がなされ、それぞれ支部実施班で適切に対応された。なお、死亡例は注射直後の発症であり、アナフィラキシーショックが疑われるが、剖検出来なかったことから確定には至っていない。

(3) 狂犬病予防注射業務に永年にわたり尽力された6名の会員に対し、北海道獣医師会会長表彰を行い、その功績を称えた。

(4) 現状の狂犬病ワクチンは1バイアル10ドース分であることから、バイアル開封後の日数経過等により廃棄を余儀なくされる。ワクチンメーカーに対し、1バイアル1ドース製品の開発、供給を要請している。なお、このことは日本獣医師会の狂犬病予防体制整備特別委員会でも検討され、同様の要請がなされている。

2. 動物愛護の推進について

(1) 北海道から委託を受け実施している野生傷病鳥獣保護業務について、会員動物病院等の協力を得て 62 病院、238 頭羽（前年比 13 頭羽減）の傷病鳥獣の診療、救護費用を補填した。

(2) 同じく北海道から委託を受け実施している所有者の判明しない犬猫等の診療、保護委託業務では 43 病院、285 頭（前年比 85 頭減）の保護・診療費用の一部を補填した。

札幌市（札幌市小動物獣医師会が受託）、函館市、旭川市においても、それぞれ市からの受託により同事業を実施し、札幌市 16 病院 31 頭、函館市 2 病院（治療犬猫なし）、旭川市 3 病院 28 頭の保護治療を行った。

3. 公開講座等の開催について

(1) 北海道医師会との学術連携シンポジウム

高病原性鳥インフルエンザをはじめ多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や食品の安全性確保に関する意識が高まる中、医師と獣医師が緊密に連携し、安全で安心な社会を構築することが求められている。

このような状況を受け、学術協力を推進する旨の協定書締結に基づき、4月14日「死に至るダニ媒介性感染症」をテーマに連携シンポジウム等を開催した。

(2) 野生動物部会の協力を得て、野性傷病鳥獣の診療技術向上のため技術講習会を札幌市（円山動物園）、釧路市（釧路湿原野生生物保護センター）において開催準備をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止した。

(3) 8月に当会館において「どうぶつのお医者さん体験教室」を開催し、小学生等が動物愛護や獣医師の仕事に対する理解を深めた。

収益事業1：不動産賃貸事業

1. 所有地の貸付け

本会が発寒に所有する土地（670m²）を駐車場用地として（株）コラボに貸付けた。

2. 所有建物の貸付け

北海道獣医師会館の事務室スペースは北海道家畜畜産物衛生指導協会、さっぽろ獣医師会、札幌市小動物獣医師会、日本馬事協会北海道事務所に貸付けするとともに、会議室は各種会議、研修会等に貸付けを行った。

収益事業2：共同購入事業

会員が業務上必要とする各種様式印刷物や診断薬を一括購入し、添付諸表資料7のとおり斡旋販売した。

その他事業1： 福利厚生事業

「福利厚生規程」に基づき、病氣見舞金、弔慰金及び生花をそれぞれ添付諸表資料5のとおり贈呈した。

その他事業2： 受託事業

1. 狂犬病予防注射済票交付事業

道内173市町村からの委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、市町村に代わり、狂犬病予防注射を受けた犬の飼養者に対し、狂犬病予防注射済票の交付を行った。

飼養者が居住していない市町村で狂犬病予防注射を受けた場合、注射実施者、責任者や各支部事務局の協力により、狂犬病予防注射済証を当該自治体に送付する事業を実施した。

2. 犬の登録及び鑑札交付事業

道内6市からの委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、狂犬病予防注射実施時に道内6市に代わり犬飼養者の便宜のため犬の登録受付及び鑑札の交付を行った。

3. 動物愛護週間における啓発活動

札幌市小動物獣医師会が主催する「人とペットの暮らし広場 2019」、江別市小動物開業獣医師会が主催する「2019 動物愛護フェスティバル in えべつ」、胆振獣医師会が主催する「胆振動物愛護フェスティバル」、その他各地区獣医師会で振興局との共催による動物愛護事業等の行事に協賛するとともに、日本獣医師会が主催する「2019 動物感謝デー in Japan “World Veterinary Day”」に協賛し、駒沢オリンピック公園で動物愛護思想の普及啓発に努めた。

4. 海鳥等保護対策事業

天売島において野良猫が増加し、この影響で希少な海鳥が激減していた。この海鳥保護のため、羽幌町等からの委託を受け、不妊去勢手術、馴化、譲渡等で野良猫を減少させる事業を実施し、環境省・道庁・羽幌町・本会・北海DOぶつネット等による「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会（会長：高橋 徹北海道獣医師会会長）を立ち上げ関係機関連携のもとに活動の成果が見られ、野生猫は減少して海鳥は増加している。

【会務運営報告】

(1) 組織基盤強化

道内 13 支部、職域及び専門部会と連携し、事業の推進を進めるとともに、会員の加入促進と組織基盤強化を図るため組織基盤強化特別委員会を開催し、道内関係機関との連携を深め今後も情報交換をしていくことにした。

(2) 北海道獣医師会館建設に向けた財政基盤強化

北海道獣医師会館の老朽化と耐震性の欠如を指摘されており、今後 10 年を目途として建替えに向けて会員の理解を深めるとともに、資金調達計画等の検討を進めていきたい。また、賛助会員への加入促進を積極的に進めるとともに、公益法人への寄付税制を活かした寄付金制度の立ち上げ等により財政基盤の強化を図っている。今年度に入ってから、北海道獣医師会館のリフォームが可能か専門業者に調査を依頼した。40 年以上前の建築物であり法的には違法ではないが、既存不適合建築物と診断された。今後使用していくことに問題はないが、リフォームすることの提案はされなかった。北海道獣医師会としては再度会員に北海道獣医師会館の必要性を説き、資金調達計画等も再考しながら進めるという会館建設計画検討特別委員会の提案を最重要課題とした。

(3) ダニ媒介性脳炎対策事業

ダニ媒介性脳炎は人獣共通感染症として問題となっている。マダニ咬着犬からの感染が疑われ、今年度も北海道医師会との連携シンポジウムのテーマに取り上げた。道内の小動物病院の協力を得て、抗体及びウイルス分離調査を行った。9 振興局・26 病院からの 178 検体から 25 例のダニを確認した。今後もさらに広く小動物病院に検体の採材を依頼し、本病の浸潤状況の把握に努めていく。

(4) 女性獣医師の就業環境の整備と就業促進

近い将来、獣医師の半数を女性が占めることになり、女性獣医師がより一層活躍できる環境づくりが極めて重要となっている。日本獣医師会と連携し、女性獣医師がより活躍できるための検討を進めている。

(5) 産業動物及び公務員獣医師の確保

安定的で高度な獣医療の提供、食の安全確保の推進には、産業動物及び公務員獣医師の確保が必要であり、より一層の処遇改善等に関係機関に求めるため、今年度の北海道獣医師大会に提案した。

(6) 広報活動の推進

情報化社会に対応し、本会ホームページ等による広報活動の充実強化が求められている。会員への情報伝達の充実を図るとともに、一般市民を対象とした本会の活動紹介、動物病院の紹介等の充実強化に努めた。

(7) 獣医師倫理の高揚

獣医師の高度専門職として社会的信頼を確保し、その使命を果たすことができるよう日本獣医師会が定める「獣医師倫理綱領」等の普及啓発に努めた。

(8) 動物診療現場におけるインフォームドコンセントの徹底

動物診療においては、インフォームドコンセントを重視し、飼い主との信頼関係を築き、「小動物医療指針」及び「産業動物医療指針」により日々診療に務め、普及啓発

をした。また動物診療に係り、問題提起にも対処した。